

**児童発達支援事業所における自己評価結果
(公表)**

別添資料5

公表:令和3年 4月 14日

事業所名 児童発達支援事業所ANDY

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	各スペースの機能を明確にし、スケジュールにて割り振り、定員の適性を確保している。	・児童間の距離に注意しつつ、支援に必要なスペースを準備していく
	2	職員の配置数は適切である	4	0	職員間で連携を行い、マンツーマンでの支援、集団での支援を行っている。	・今後も継続していく
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	0	利用児の体格に合わせて可能な限り設置している。	・階段の昇降の際には、声掛け支援を継続していく ・今後も室内の導線に物を置かない ・追加可能な部分のバリアフリー化を目指す
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	0	毎日清掃・消毒を行い、各スペースの機能を明確に分け、子供にもわかりやすくしている。	・今後も継続していく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	0	月に1度、社内会議を開き、利用児の状況把握、目標設定、振り返りを行っている。 また、毎日事業所内でのミーティングを行っている。	・月に1度の会議は継続していく。さらに必要に応じて臨時の会議も行っていく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	年に1度アンケート調査を実施している。集計を行い、結果を職員に明示することで業務、サービス等の改善を図っている。	・アンケートで挙げられた内容を精査し、改善に努めていく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	ホームページにて公開している。	・今後も継続していく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	0	現状、行っていない。	・今後検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	今年度は、コロナウイルスの影響もあり、回数は少なめであったが、いくつかのオンラインでの外部研修会に参加した。	・状況を確認し、今後も内部研修も含め、研修の機会を積極的に設けていく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	0	日々の利用時にアセスメントを重ね、保護者との情報交換の場を持ち、常に客観的な分析を行っている。	・今後も継続していく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	円城寺式乳幼児分析的発達検査法、太田ステージ評価、WISC検査等を使用し状況把握を行っている。	・今後も継続していく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	0	今後も各項目に合わせた具体的な計画を作成し支援を行う。	・今後も継続していく
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	支援計画に基づき日々のプログラムを作成している。	・今後も継続していく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	日々ミーティングを行いながらプログラムを全体で確認している。	・今後も継続していく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	豊富な種類のプログラムを用意し、支援を行っている。 その日の利用児の状況によつても適切に支援が提供できるように、準備している。	・今後も継続していく
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4	0	公園への外出やイベントを通して集団行動を学ぶ機会を設定している。個別活動で集団活動へ入りやすくするためのトレーニングも行っている。	・感染症対策を行なながら、少人数での集団行動を学ぶ機会を作っていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	朝礼時に、利用児名、利用時間、送迎の有無、前回までの状況の確認、全体スケジュールの確認を行っている。	・今後も継続していく。報連相の徹底を一層図っていく
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	個別記録に記録し、次回利用までに共有と振り返りを行い、次の支援内容を検討している。	・今後も継続していく、状況に応じて関係各所との連携も図っていく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	記録を通して児童の状況の確認を行い、気づきを話し合っている。	・今後も継続していく

**児童発達支援事業所における自己評価結果
(公表)**

別添資料5

公表:令和3年 4月 14日

事業所名 児童発達支援事業所ANDY

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	年に2回面談行っている。常に日々の小さな変化をも捉えられるようにリサーチをしている。	・今後も継続していく
	21 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	児童発達支援管理責任者の他に対象の児童の担当となっている職員を配置している	・今後も継続していく
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	0	連携小児科、子育て支援無料LINE相談窓口、宇都宮発達センター、宇都宮LDサポートセンターと連携している。	・今後も継続していく
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	4	現状、医療的ケアが必要な児童の受け入れをしていない	・現段階では、職員体制の観点から医療的ケアが必要な児童の受け入れは想定していない
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	0	同上	同上
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	2	移行を目標に相談があつた時に情報の提供を行う用意はある。	・移行する場合には、利用児の利用施設と連携を図り、情報を提供していく。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	同上	同上
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	0	宇都宮 LDサポートセンターと連携を図り、研修等行っている。また、系列放課後等デイサービス事業所との共同研修も行っている。	・今後も継続していく
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	0	公園での他児童や、職員児童との交流は定期的に行っている。	・状況を確認し、兄弟参加の行事を行っていく
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	0	今年度は、コロナウイルスの影響で参加できていない	・状況を確認しながら、参加できるようにする
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	送迎の際に口頭で状況やご家庭での状態の共通理解を図っている。必要に応じて電話での連絡も行っている。	・今後も継続していく
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	4	0	保護者様の困っている状況をしっかりと把握し、ご家庭の状況を踏まえ、一緒に対応策を考えている。	・今後も継続していく
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	契約時に面談マニュアルに沿って、チェックしながら行っている。	・今後も継続していく
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0	児童発達支援計画の作成時、更新時に面談を行い、疑問点等がないように質問等も受けながら、支援内容を説明し、同意を得ている。	・今後も継続していく
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	常に傾聴の姿勢を取り、相談しやすいような体制をとっている。	・今後も継続していく
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	0	現状、父母の会は設立していない。	・今後、小規模な保護者交流会を行えるように計画中
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	今後も、相談しやすい環境を心がけ、直接のご相談だけでなく、電話や、LINE等でのご相談も継続していきます。	・今後も継続していく
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	年間カレンダーをお渡しし、保護者様向けLINEでの情報配信も行っている。	・今後さらにLINE、HP等で情報発信を行っていく
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	4	0	スタッフに取り扱いについて研修を行うとともに、鍵付きのロッカーに保管している。	・今後も継続していく
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	言葉選びにも十分配慮し、誤解や、不安等のない円滑なコミュニケーションが取れるように教育と注意喚起を常に行っている。	・今後も継続していく、必要に応じ再確認も視野に入れていく
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	0	現状、行っていない	・今後検討していく。

**児童発達支援事業所における自己評価結果
(公表)**

別添資料5

公表:令和3年 4月 14日

事業所名 児童発達支援事業所ANDY

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	0	保護者様への周知が徹底されていない。	・今後職員だけでなく保護者にも情報発信を行う
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	利用児を交えた避難訓練は行っていない。避難場所やハザードマップの提示をしている。	・今後、利用児も含めた避難訓練を行っていく
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	4	0	入会時に持病の有無などの聞き取りを行っている。	・必要に応じて予防接種状況も確認する
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	入会時にアレルギーの有無の聞き取りを行っている。また、保護者から託されたものだけの摂取としている。	・今後も継続していく
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	記録として残している。	・事例集として保存していく
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	研修等を行い、常にお互いの監視も行っている。	・今後も継続していく
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	0	身体拘束を伴う児童の受け入れをしていない。また、一対一の支援体制なので身体拘束をしない方針で支援を行っている。	・今後、どうしても身体拘束を行わなければならない状況の児童の受け入れがあった場合に検討する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

放課後等ディサービス事業所における自己評価結果(公表)

別添資料10

公表:令和 3年 4月 14日

事業所名 放課後等ディサービスANDY

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	各スペースの機能を明確にしスケジュールにて割り振り、定員の適性を確保している。	・児童間の距離に注意しつつ、支援に必要なスペースを準備していく
	2	職員の配置数は適切である	4	0	職員間で連携を行い、マンツーマンでの支援、集団での支援を行っている。	・今後も継続していく
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	0	利用児の体格に合わせて可能な限り設置している。	・階段の昇降の際には、声掛け支援を継続していく ・今後も室内の導線に物を置かない ・追加可能な部分のバリアフリー化を目指す
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	0	月に1度、社内会議を開き、利用児の状況把握、目標設定、振り返りを行っている。 また、毎日事業所内でのミーティングを行っている。	・月に1度の会議は継続していく。さらに必要に応じて臨時の会議も行っていく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	年に1度アンケート調査を実施している。集計を行い、結果を職員に明示することで業務・サービス等の改善を図っている。	・アンケートで挙げられた内容を精査し、改善に努めていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	ホームページにて公開している。	・今後も継続していく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4	現状、行っていない。	・今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	今年度は、コロナウイルスの現状もあり、回数は少なめであったが、いくつかのオンラインでの外部研修会に参加した。	・状況を確認し、今後も内部研修も含め、研修の機会を積極的に設けていく。
適切な支	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等ディサービス計画を作成している	4	0	日々の利用時にアセスメントを重ね、保護者との情報交換の場を持ち、常に客観的な分析を行っている。	・今後も継続していく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	円城寺式乳幼児分析的発達検査法、太田ステージ評価、WISC検査等を使用し状況把握を行っている。	・今後も継続していく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	日々ミーティングを行いながらプログラムを全体で確認している。	・今後も継続していく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	豊富な種類のプログラムを用意し、支援を行っている。 その日の利用児の状況によっても適切に支援が提供できるように、準備している。	・今後も継続していく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	0	平日はリズムを整え、休日や長期休暇時は行事を取り入れたりなど、適切な課題や体験を設定している。	・今後も継続していく

支援の提供	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	公園への外出やイベントを通して集団行動を学ぶ機会を設定している。個別活動で集団活動へ入りやすくなるためのトレーニングも行っている。	・感染症対策を行ながら、少人数での集団行動を学ぶ機会を作っていく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	朝礼時に、利用児名、利用時間、送迎の有無、前回までの状況の確認、全体スケジュールの確認を行っている。	・今後も継続していく。報連相の徹底を一層図っていく
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	個別記録に記録し、次回利用までに共有と振り返りを行い、次の支援内容を検討している。	・今後も継続していく、状況に応じて関係各所との連携も図っていく
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	記録を通して児童の状況の確認を行い、気づきを話し合っている。	・今後も継続していく
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	0	年に2回面談行っている。常に日々の小さな変化をも捉えられるようにリサーチをしている。	・今後も継続していく
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	4	0	利用児に合わせたプログラミングを行い支援している。	・今後も継続していく
関係機関や保護者との連携	20 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	児童発達支援管理責任者の他に対象の児童の担当となっている職員を配置している	・今後も継続していく
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っていている	0	4	保護者に行事予定表をいただき、情報の共有を図っている	・学校への送迎が現状無かったので行っていなかったが、今後は行っていく。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	0	現状、医療的ケアが必要な児童の受け入れをしていない	・現段階では、職員体制の観点から医療的ケアが必要な児童の受け入れは想定していない
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	4	現状、行っていない。	・現段階では、行う予定はないが、その必要性がある児童の受け入れをした場合には行っていく
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	4	移行を目指し相談があった時に情報の提供を行う用意はある。	・移行する場合には、障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者と連携を図り、情報を提供していく
	25 児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	0	宇都宮LDサポートセンターと連携を図り、研修等行っている。また、系列放課後等デイサービス事業所との共同研修も行っている。	・今後も継続していく
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	職員児童との交流は定期的に行っている。今年度は、コロナウイルスの観点から、兄弟参加行事を行っていない。	・状況を確認し、兄弟参加の行事を行っていく
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4	今年度は、コロナウイルスの影響で参加できていない	・状況を確認しながら、参加できるようにする
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	送迎の際に口頭で状況やご家庭での状態の共通理解を図っている。必要に応じて電話での連絡も行っている。	・今後も継続していく
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	保護者様の困っている状況をしっかりと把握し、ご家庭の状況を踏まえ、一緒に対応策を考えている。	・今後、ペアレントトレーニングとしての情報提供を積極的に行なっていく
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	契約時に面談マニュアルに沿って、チェックしながら行っている。	・今後も継続していく

保護者への説明責任等	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	常に傾聴の姿勢を取り、相談しやすいような体制をとっている。	・今後も継続していく
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4	現状、父母の会は設立していない。	・今後、小規模な保護者交流会を行えるように計画中
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	今後も、相談しやすい環境を心がけ、直接のご相談だけでなく、電話や、LINE等でのご相談も継続していきます。	・今後も継続していく
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	年間カレンダーをお渡しし、保護者様向けLINEでの情報配信も行っている。	・今後さらにLINE、HP等で情報発信を行っていく
	35 個人情報に十分注意している	4	0	スタッフに取り扱いについて研修を行うとともに、鍵付きのロッカーに保管している。	・今後も継続していく
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	言葉選びにも十分配慮し、誤解や、不安等のない円滑なコミュニケーションが取れるように教育と注意喚起を常に行ってている。	・今後も継続していく、必要に応じ再確認も視野に入れていく
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4	現状、行っていない	・今後検討していく。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0	4	保護者様への周知が徹底されていない。	・今後職員だけでなく保護者にも情報発信を行う
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	0	4	利用児を交えた避難訓練は行っていない。避難場所やハザードマップの提示をしている。	・今後、利用児も含めた避難訓練を行っていく
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	研修等を行い、常にお互いの監視も行っている。	・今後も継続していく
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行つかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	4	身体拘束を伴う児童の受け入れをしていない。また、一対一の支援体制なので身体拘束をしない方針で支援を行っている。	・今後、どうしても身体拘束を行わなければならぬ状況の児童の受け入れがあつた場合に検討する。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	入会時にアレルギーの有無の聞き取りを行っている。また、保護者から託されたものだけの摂取をしている。	・今後も継続していく
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	記録として残している。	・事例集として保存していく